組立要領書

16型ワイド
地上デジタル浴室テレビ

（地上･BS･110度CSデジタルチューナー搭載）
MW16D-3
MW16D-3B

●この組立要領書は、試運転が完了するまで捨てないでください。
●システムバスルームに取付ける場合は、システムバスルーム組立要領書を合わせてご覧ください。

必ずお読みください

元請店様へ

必ず**試運転**の実施をお願いします。

設置業者様へ

電気工事業者様へこの組立要領書を確実にお渡しください。

電気工事業者様へ

試運転は電気工事終了後に行いますので、元請店様へこの組立要領書をお渡しください。

安全上のご注意（必ずお守りください）

組立の前に、この安全上の注意をよくお読みの上、
正しく据付けてください。

◎この組立要領書では、製品を安全に正しく取付けていただき、使用者への危害や財産への損害および組立業者への危害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。
その表示と意味はつぎのようになっています。

⚠ **警告**	この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠ **注意**	この表示の欄は「軽傷を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

◎下に示す絵表示は組立要領書や製品に表示して、組立業者の方に安全に正しく製品を取付けていただくものです。
内容をよく理解して正しく取付けてください。

禁　止	この絵表示は、行ってはいけない「禁止」の内容です。
必ず行う	この絵表示は、必ず実行していただく「強制」の内容です。

◎組立完了後、試運転及び各部の点検を行い、器具のがたつきや漏電・水漏れなどの安全上の不具合が無いことを確かめてください。

◎同梱されている**取扱説明書は、**使用者に製品を正しく安全に使用していただくための**重要な書類**です。 紛失や汚れのないように大切に保管し、組立完了後、**必ず使用者または元請店にお渡しください。**

◎組立要領書（本書）は、組立完了後使用者または元請店にお渡しください。

⚠ 警告

必ず行う

設置は、組立要領書にしたがって確実に行う
設置が不完全な場合、感電や火災などの原因となります。
また、漏水により家財などを汚したり、腐らせるおそれがあります。

禁　止

交流１００V以外は使用しない
感電や発熱・火災の原因となるおそれがあります。

必ず行う

電気工事は関連する法令・法規にしがたって、必ず「有資格者（電気工事士）」が行う
接続や固定が不完全な場合は、火災や漏電のおそれがあります。

必ず行う

漏電遮断器が取付けられていることを確認する
漏電遮断器は必ず取付けてください。
感電するおそれがあります。

必ず行う

開梱後、不要になった梱包材はすみやかに処分する
段ボールや締付バンドなどでケガをするおそれがあります。
また、ビニール袋などは子供などがかぶって遊び、思わぬ事故につながるおそれがあります。

禁　止

製品の改造や分解は行わない
火災や感電、落下による傷害のおそれがあります。

⚠ 注意

必ず行う

組立に使われる溶剤・洗剤・接着剤・その他薬品類は、容器などに記載の注意表示にしたがって、正しく使用する
誤った使い方をすると、人体に影響が出たり、使用部材の損傷や劣化の原因につながるおそれがあります。

必ず行う

機器の取付けは、確実に行う
止水不良による漏水のおそれがあります。

⚠ 取付け前のご注意

- テレビ取付けの際、必要に応じ壁裏補強を実施してください。
- スチームサウナ等、高温（５０℃を超える）になる場合には取付けはできません。
- 浴室乾燥機のある浴室に取付ける場合は、温風が浴室テレビに直接あたらない場所をお選びください。
- 直射日光のあたる場所への取付けは避けてください。
- 薬品を使用するなど通常環境と異なる場所への取付けはできません。
- 正面から浴室テレビを見ることができる位置に取付けてください。
- レコーダー、プレーヤー等の外部機器は接続できません。
- このテレビは日本国内のみで使用できます。
  外国では、放送方式・電源電圧が異なりますので使用できません。

システム図

⚠注意

必ず行う

•落雷に備えて、アンテナ設備にアースを取るか、保安器を必ず設置してください。

⚠注意

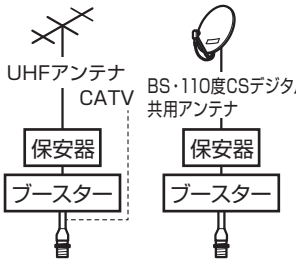
必ず行う

•取付の際は、必ず屋内開閉器（ブレーカー）と漏電遮断器を設置してください。

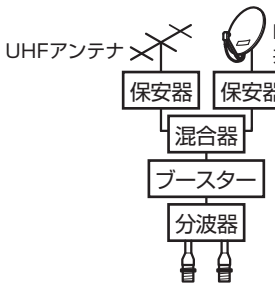
※電気工事で配線します。

破線囲み部分 ┈┈ 以外は、全て電気工事区分です。

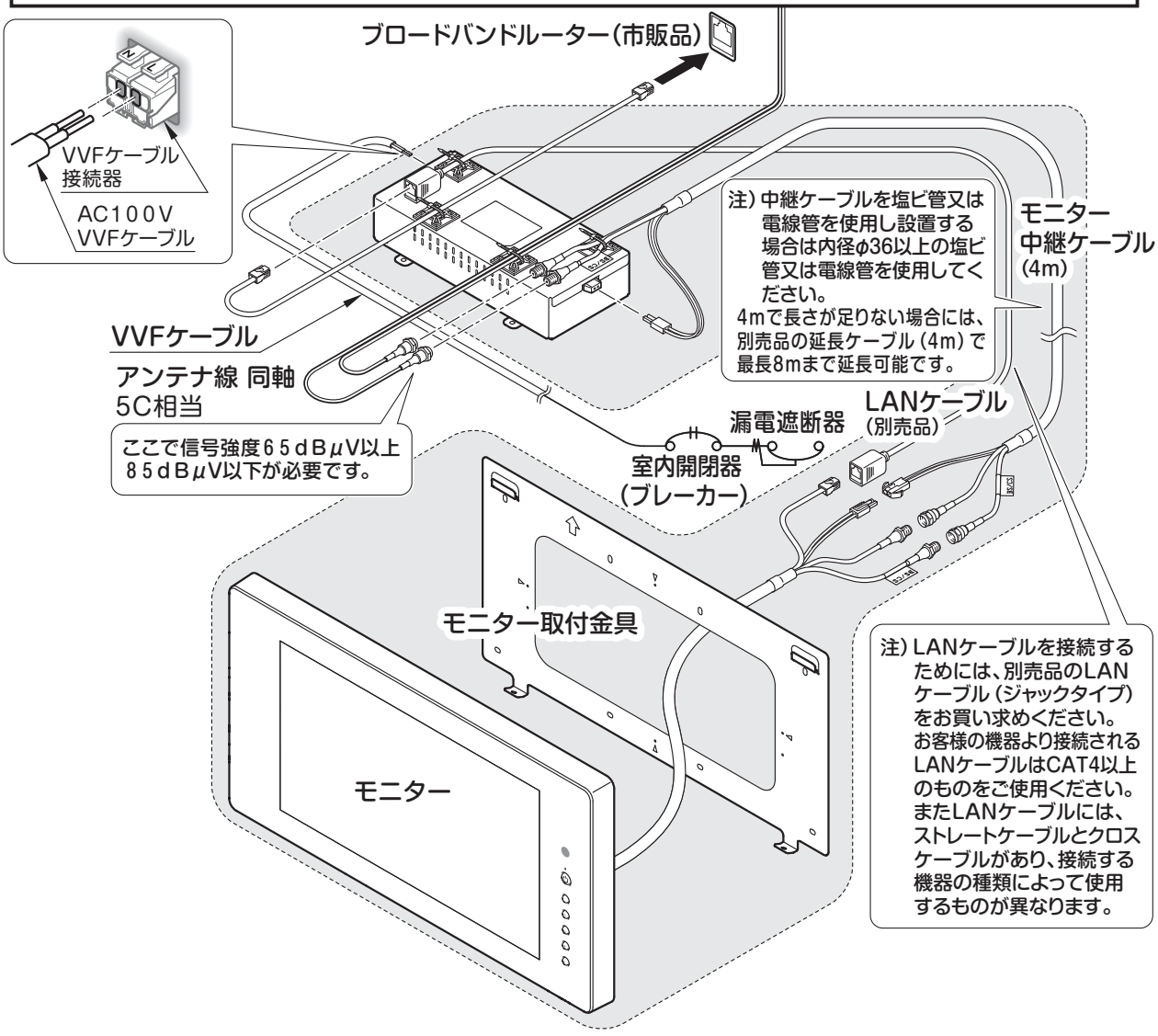
個人でアンテナを設置しているとき
（BS・110度CSデジタルとUHF・VHFが別の端子のとき）



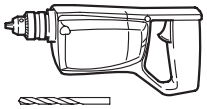
マンションなどの共聴システムで受信しているとき
（BS・110度CSデジタルとUHFが混合されているとき）



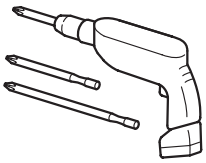
• UHFアンテナについて
地上デジタル放送を受信する為には、地上デジタル放送に対応したUHFアンテナが必要です。
• CATVについて
CATVへの接続については、各CATV会社にご確認ください。
• ブースター（市販品）について
アンテナから送られてくる電波が弱く受信障害となる場合は、ブースター（増幅器）を設置してください。
電波が強すぎて受信障害となる場合は、アッテネータ（減衰器）を用いて信号強度を弱めてください。



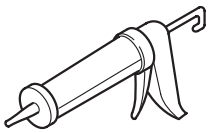
工　具



電動ドリル
ドリル刃φ2.8、
φ6（φ50下穴用）

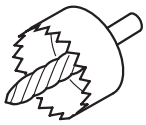


ドライバービット
⊕短・長 No.2（先端サイズ）
電動ドライバー（トルク調整機能付）



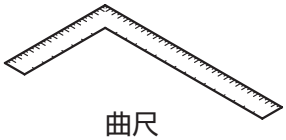
コーキングガン

短寸のドライバー
（100mm以内）
⊕No.1・2（先端サイズ）

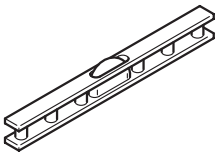


ホルソー
φ50

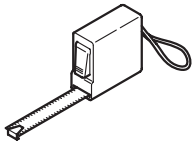
樹脂ハンマー



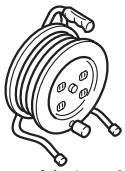
曲尺



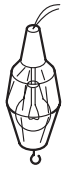
水準器



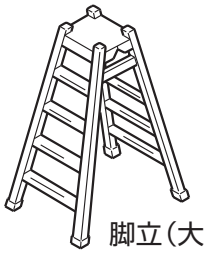
金尺



コードリール

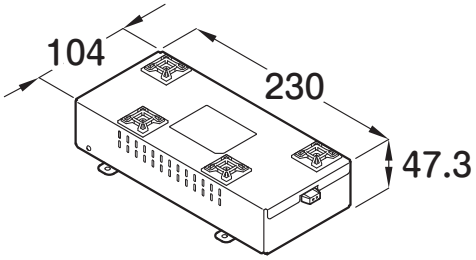
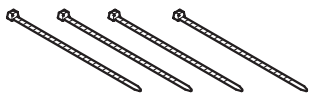
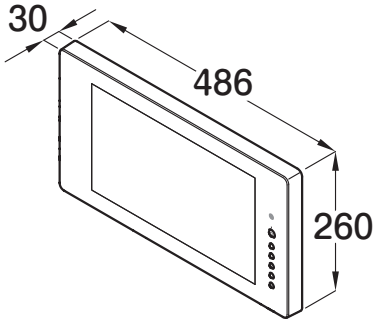
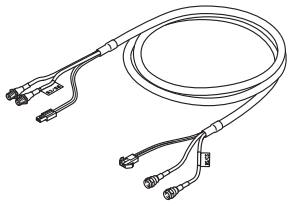
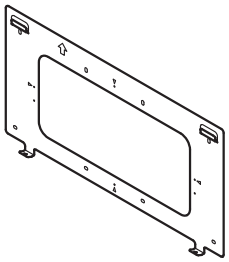


作業灯



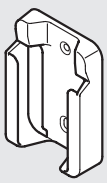
脚立（大・小）

セット部品の確認

電源ボックス 	結束バンド 	ビスカバー
モニター 	モニター中継ケーブル （4000㎜） 	モニター取付金具 

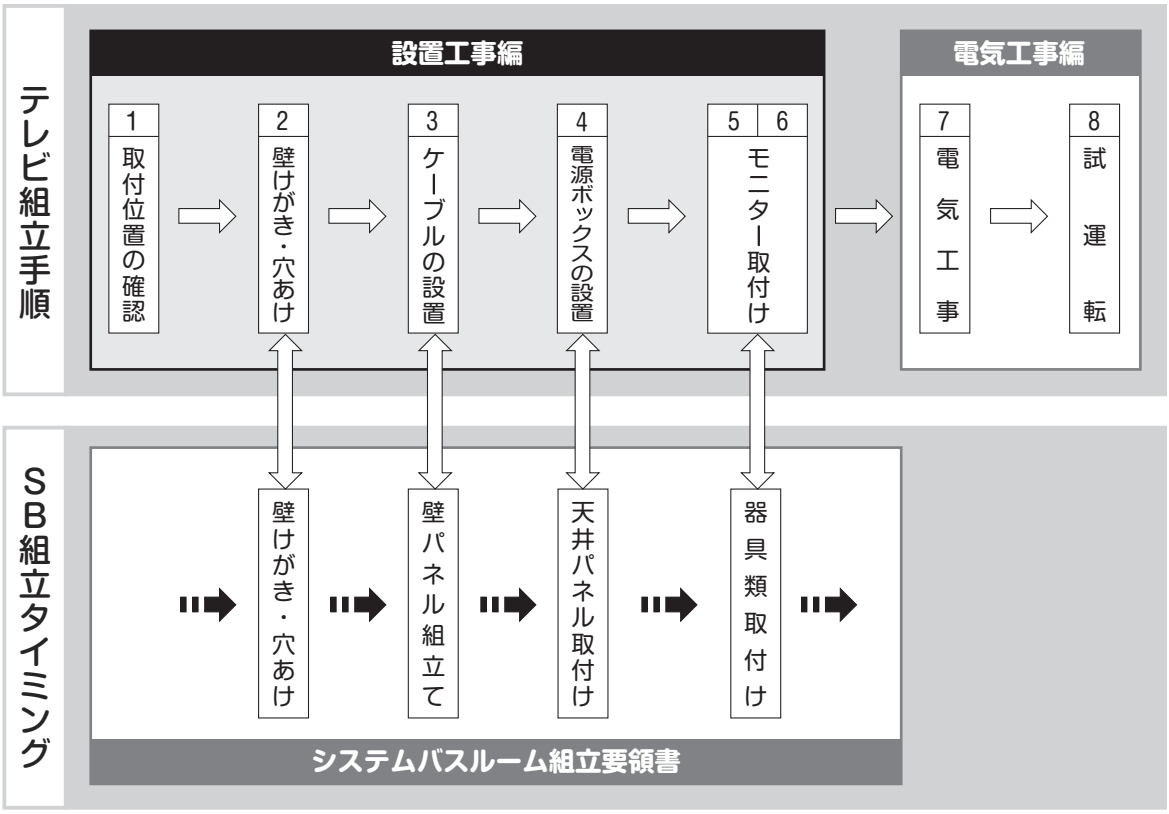
モニター取付金具取付ねじ 4×30、8本
モニター取付ねじ　ワッシャ組込M3×6、2本／六角穴付M3×5、2本
六角レンチ
樹脂製アンカー　φ4用、8本
組立要領書（本書）
（別売品）モニター延長ケーブル
（別売品）LAN延長ケーブル　※LAN接続の要否については、お客様に確認してください。

★リモコン、リモコンホルダー、BS・CS・地上共用ミニカード、ボタン型電池、取扱説明書は、使用者または元請店に確実にお渡しください。また保管の際は直射日光のあたる場所（窓際など）に置かないでください。

リモコン （お客様引渡部品） 	リモコンホルダー （お客様引渡部品） 	BS・CS・地上共用ミニカード （お客様引渡部品） ※以降B-CASカードと記載しています。
ボタン型電池 CR2032　※ リモコンに同梱 （お客様引渡部品）	取扱説明書　（お客様引渡部品）	

組立手順をご確認ください

※システムバスルーム取付けの場合は、システムバスルーム組立にあわせて取付けてください。
※在来浴室取付けや後付けの場合は現場にあわせて変更してください。



システムバスルーム後付け時のご注意

●穴あけ前に必ずケーブル類の配線スペースがあることを確認してください。
●穴あけ位置にシステムバスルーム壁裏配管やケーブル類、建築側柱など干渉物がないことを認してください。
●ケーブル類の壁裏配線は結束バンドなどを使用し実施してください。
この際、ケーブル類を傷つけないようご注意ください。

MEMO

設置工事編

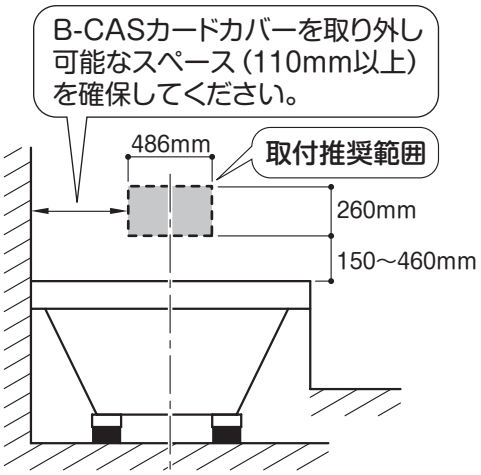
設置工事店実施事項

1．取付位置の確認	10
2．壁けがき・穴あけ	10
3．ケーブルの設置	12
4．電源ボックスの設置	13
5．モニター取付金具の設置	15
6．モニターの取付け	16

設置工事

1 取付位置の確認

モニター取付位置は取付推奨範囲を参考にして、浴槽の中からモニターを正面に見ることのできる位置に決めてください。
取付推奨範囲は取付位置の目安です。取付推奨範囲を参考にお客様の希望の位置に変更することが可能です。



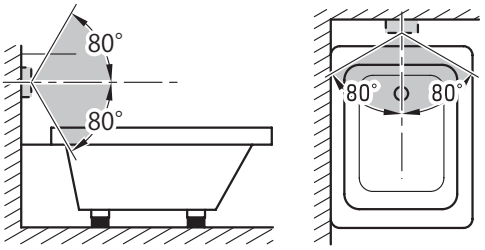
浴室テレビモニターの下側にカウンター等がある場合は、モニター下端から１００mm程度離してください。

中継ボックスの届く範囲内に電源ボックスを設置してください。4m以上必要な場合は、別売品のモニター延長ケーブル（4m）を使用していただくと、最長8mまで延長可能になります。

⚠注意

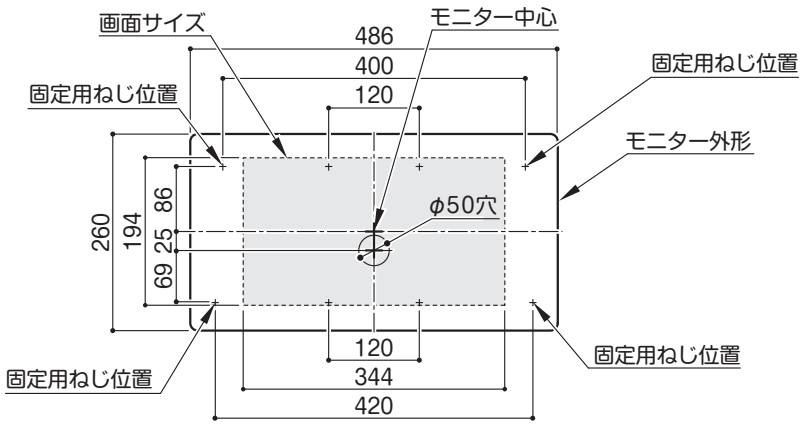
必ず行う

- モニターの視野角（よく見える範囲）は上下左右80°です。
- 水栓金具や壁裏配管などとの取合いに十分ご注意ください。
- 浴室暖房機のある浴室に取付ける場合は温風が直接あたらない位置に取付けてください。
- 直射日光のあたる場所へは取付けないでください。
- 見る角度によって画面が見えにくい場合は、見る角度に適した画面表示にできます。
（▶取説 P.32参照）



2 壁けがき・穴あけ

①下記寸法を参考にして取付位置を決める。
モニター取付位置をけがき、モニター中心位置の25mm下にφ50穴加工位置を下記寸法でけがく。



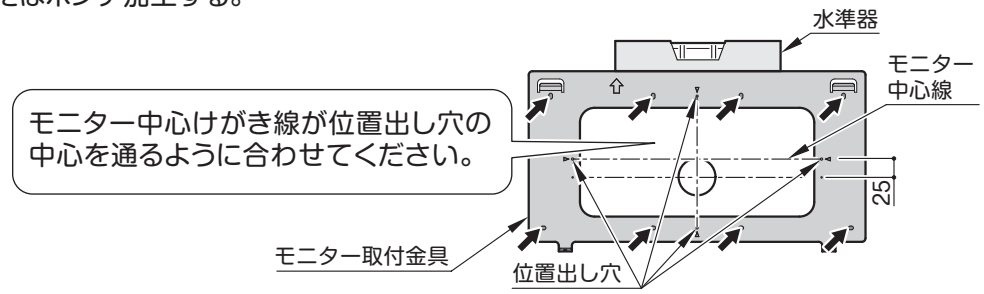
⚠注意

必ず行う

φ50穴加工位置はモニター中心位置より25㎜下になります。

2 壁けがき・穴あけ（づづき）

②モニター取付金具を壁にあてた状態で水準器で水平を出しながら、
配線用のφ50穴位置と固定用ねじ位置（8カ所）をけがく。
またはポンチ加工する。



⚠注意

必ず行う

φ50穴加工位置はモニター中心位置より25㎜下になります。

※取付ける壁の材質によって取付強度を確保できない場合は、壁裏補強材を使用してください。

③φ50穴を①のけがき線の中心にあける。
※取付けにあたり、ねじの下穴加工が必要になる場合があります。

⚠注意

穴あけ後は、浴槽内の清掃を行ってください。
もらいサビの原因となります。

④固定用ねじ位置に下穴をあける。

システムバスルームの場合

下穴径については各システムバスルームメーカーにお問い合わせください。

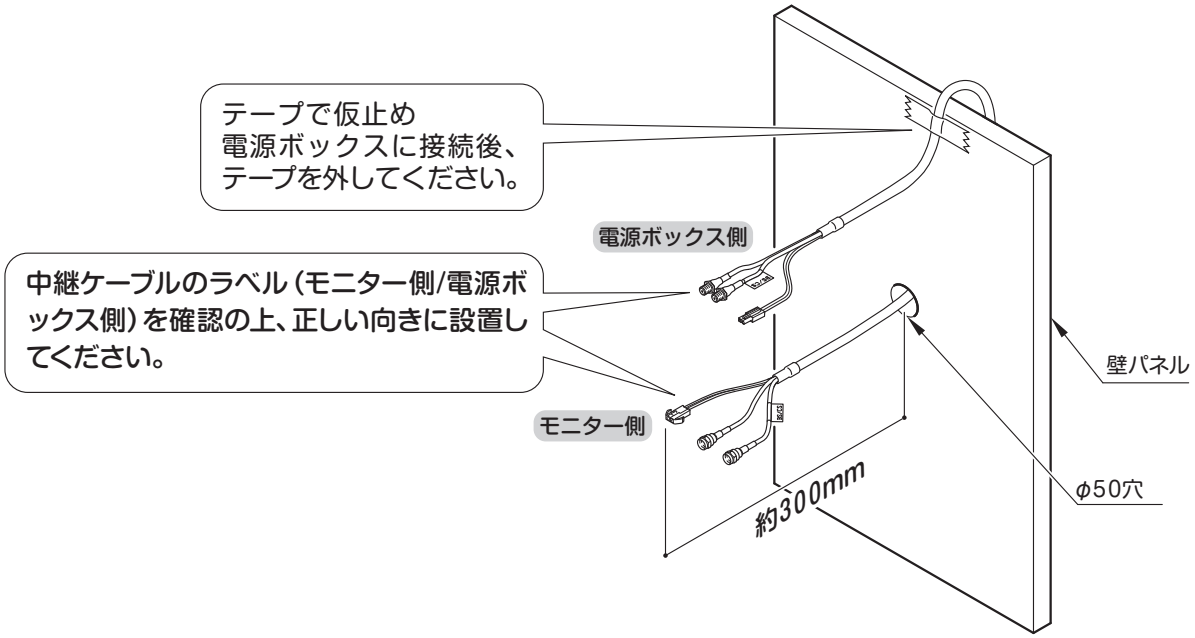
在来浴室の場合

壁面に直接ねじで固定できる場合は下穴径をφ2.8、
同梱の樹脂製アンカーを使用する場合は下穴径をφ6にしてください。

3 ケーブルの設置

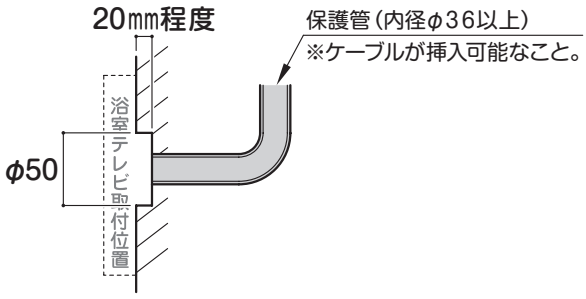
システムバスルームの場合

壁パネル組立ての際、モニター中継ケーブルをφ５０の穴に通し、
反対側を壁パネル上側から内側に向けてかけ、
落ちないようテープなどで仮固定する。



在来浴室の場合　屋内配線の場合

〈モニター中継ケーブル〉
壁にφ50の空間を設け、
ケーブル類を通す保護管を
設置してください。



⚠注意

必ず行う

- 付属のモニター中継ケーブルの長さは4mです。
  ケーブルの届く範囲内に電源ボックスを設置してください。4m以上必要な場合は、別売品のモニター延長ケーブル（4m）を使用していただくと最長8mまで延長可能になります。
- ケーブルは必ず内径φ３６以上の保護管の中を通してください。環境により劣化が早まるおそれがあります。
- コネクタは防水仕様ではありませんので、必ず防水処置を行ってください。
- 本製品は、屋外設置には対応しておりません。

4 電源ボックスの設置

⚠ 警告

禁 止

電源ボックスの上や横をグラスウールなどの保温材で覆わない
電源ボックスの上へは換気ダクトを設置しない
機器の故障や火災・漏電の原因となります。

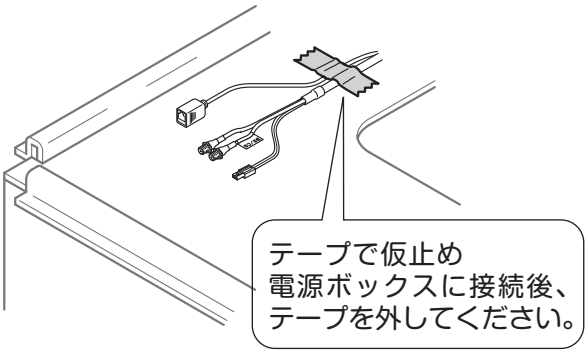
⚠ 注意

- 電源ボックスは必ず点検できる位置に設置してください。
- 中継ケーブルはなるべく他の電気機器から遠ざけて配線してください。
- 両面テープで貼付ける際、貼付け面の汚れ、ほこりなどをあらかじめ掃除してください。
- 天井に保温材が貼ってある場合には電源ボックス設置部の保温材を約300× 35 0程度はがし、天井に直接電源ボックスを設置してください。
- 電源ボックスは防水仕様ではありません。水滴がかかる場所に設置したり、水の入ったものを機器の上に置かないでください。

①テープなどで仮固定する。

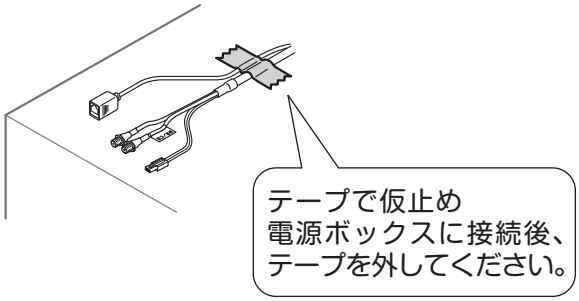
システムバスルームの場合

天井パネル取付けの際、中継ケーブルを落とさないように天井裏面に取りまわし、落ちないようテープなどで仮固定する。

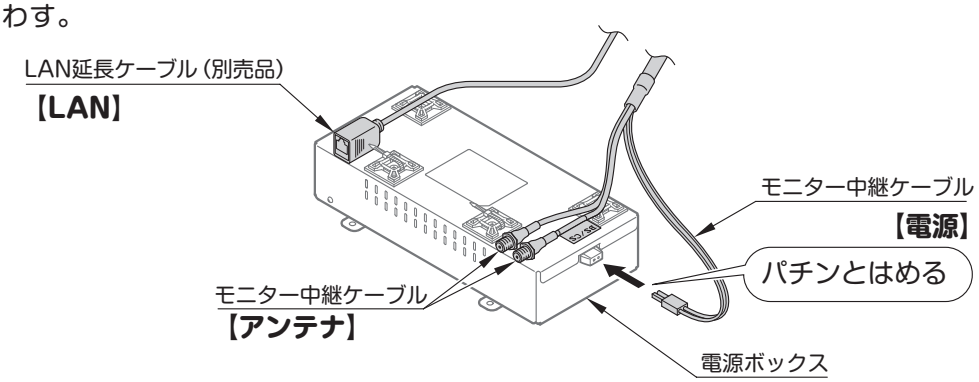


在来浴室の場合 **屋内設置の場合**

電源ボックスに接続するまでは、モニター中継ケーブルを見失わないように、天井裏面や梁などにテープなどで仮固定する。

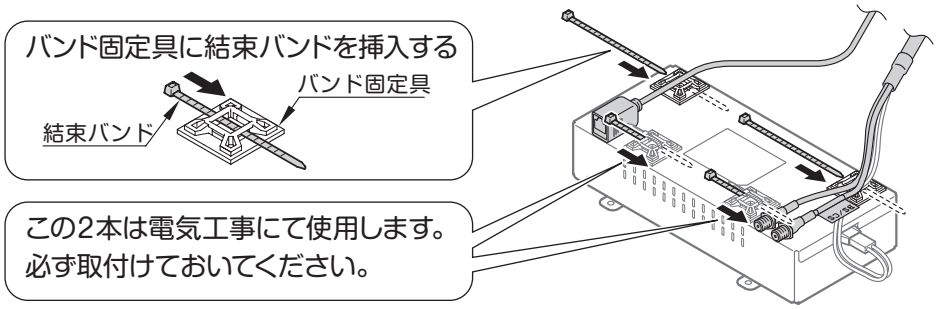


②電源ボックスにモニター中継ケーブル【電源】のコネクタを接続し、下図のようにケーブルを取りまわす。

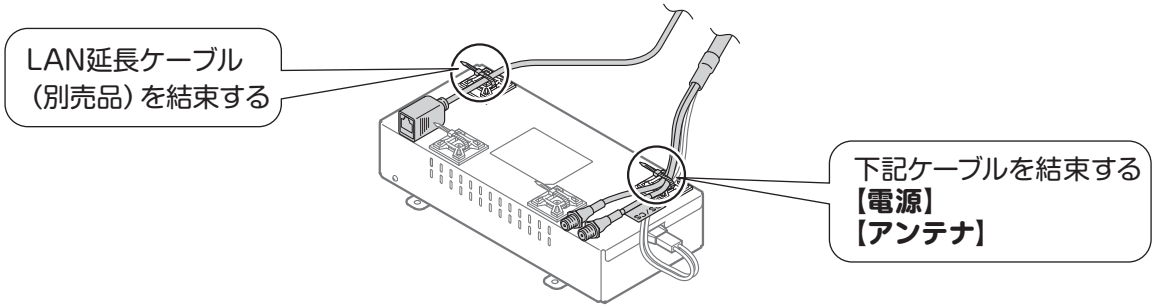


4 電源ボックスの設置（つづき）

③電源ボックスの上面に付属の結束バンド（4本）を取付ける。



④各ケーブルを結束バンドで固定する。



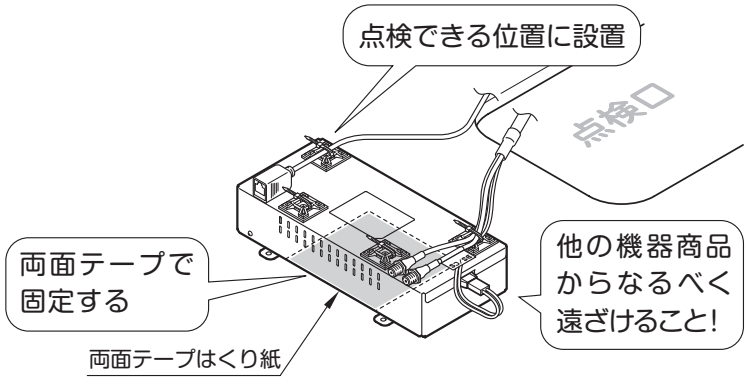
⑤中継ケーブルを天井裏にある他の機器商品からなるべく遠ざける。
※近い場合は電波障害を受けるおそれがあります。

システムバスルームの場合

電源ボックス設置位置について
（各システムバス本体の組立要領書参照）

※電源ボックスは点検しやすい向きに設置してください。

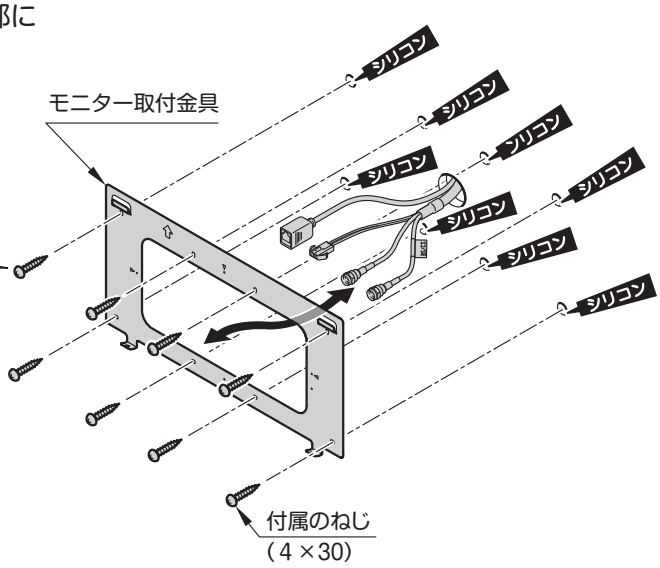
⑥電源ボックス下面の両面テープはくり紙をはがし、貼付け固定する。



5 モニター取付金具の設置

①「2　壁けがき・穴あけ」③の固定用ねじ穴加工部にシリコン系シーリング剤を塗布する。

②モニター取付金具に付属のねじ(4×30)で、モニター取付金具を仮締めする。



⚠注意

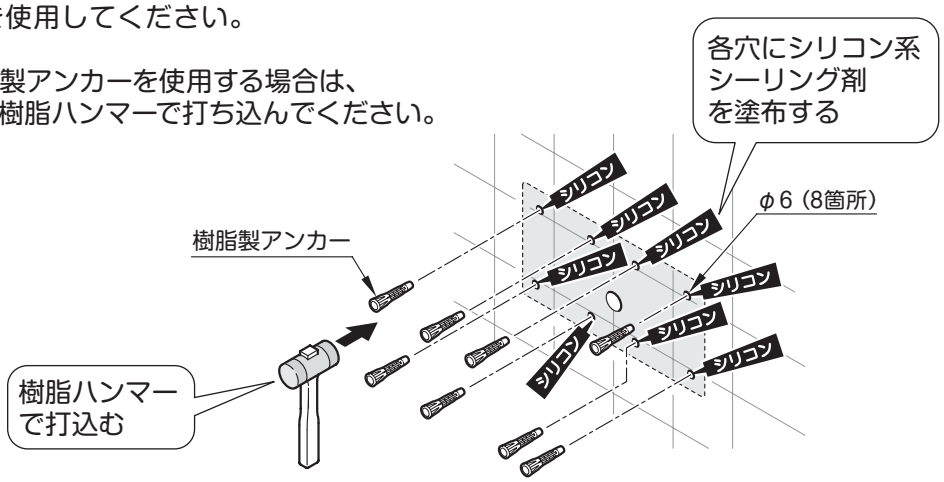
必ず行う

- このあと水平レベル出しを行いますので、本締めはせず、仮締めを行ってください。

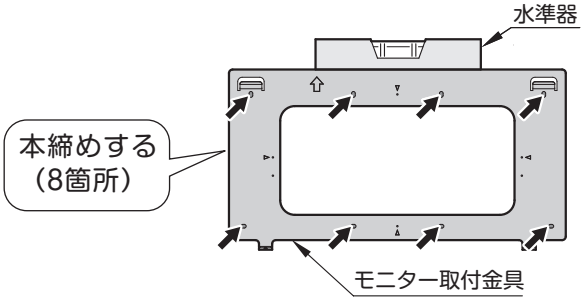
在来浴室／タイル壁の場合

※タイル壁設置の場合は、下穴を開け付属の樹脂製アンカーを使用してください。

※同梱の樹脂製アンカーを使用する場合は、アンカーを樹脂ハンマーで打ち込んでください。

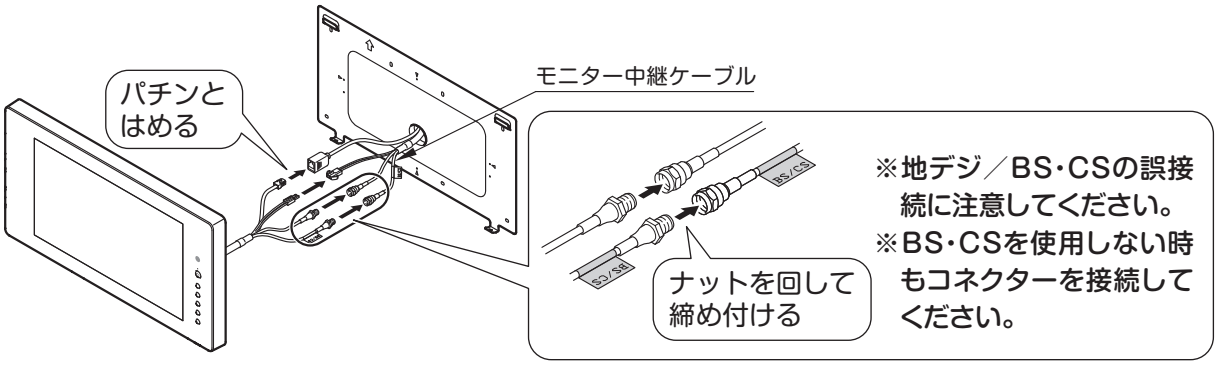


③モニター取付金具を仮設置した状態で、水準器で水平を出しながら、ねじを本締めする。



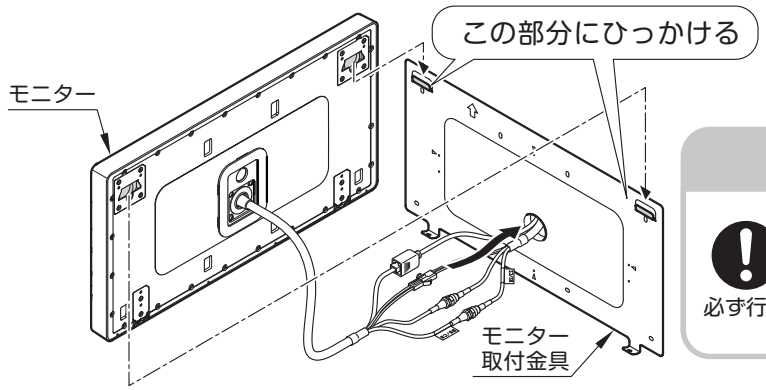
6 モニターの取付け

①モニターに付属のケーブルとモニター中継ケーブルを接続する。



※地デジ／BS・CSの誤接続に注意してください。
※BS・CSを使用しない時もコネクターを接続してください。

②壁裏にケーブル類を納めながら、モニターをモニター取付金具にひっかける。

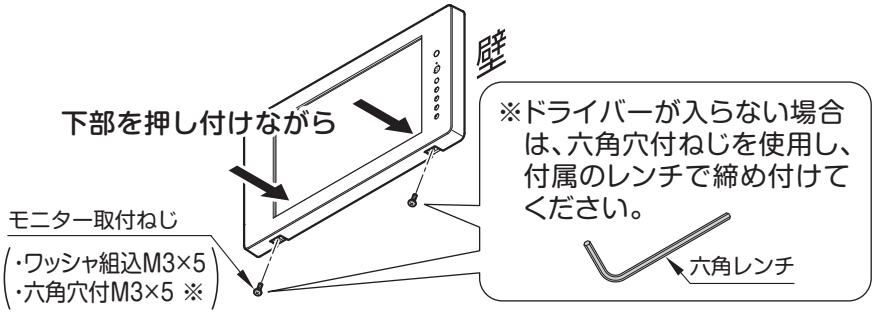


⚠注意

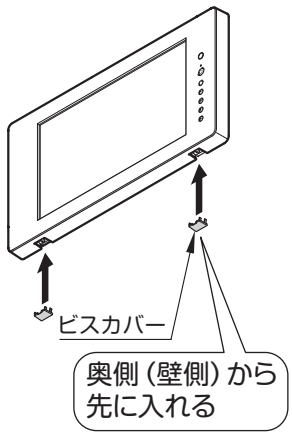
必ず行う

- モニター取付金具に確実に取り付けてください。モニターが落下し、破損するおそれがあります。

③モニターを壁側へ押しつけながら、モニター取付ねじ（ビスカバーに同梱）でモニターをモニター取付金具に固定する。



④ビスカバーを取付ける。

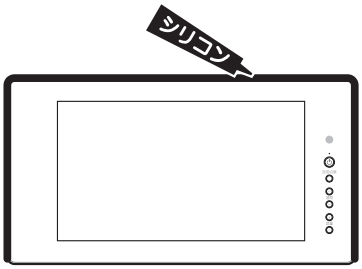


⚠注意

必ず行う

- ねじの締付けは、必ず手締めで行ってください。電動ドライバーを使用するとねじ部が破損するおそれがあります。

⑤モニターの下辺を除く3辺にシリコンを切れ目なく塗布する。



⚠注意

必ず行う

確実な塗布を行う

- 塗布が不備の場合は、モニター内に水が侵入し故障する原因となります。
- シリコンの色は右記を使用してください。

テレビ本体	シリコン色
白色	白色
黒色	クリア色または壁色に合わせた色

電気工事編

電気工事店実施事項

電気工事 **18**

1．電源ケーブル・アンテナ線の接続 18

元請店実施事項

試運転 **19**

1．リモコンの準備 19

2．B-CASカードを挿入する 19

3．かんたん初期設定をする 21

4．デジタル放送の受信の設定を個別に行うときは 24

5．こんなときは 28

6．LANに接続する 30

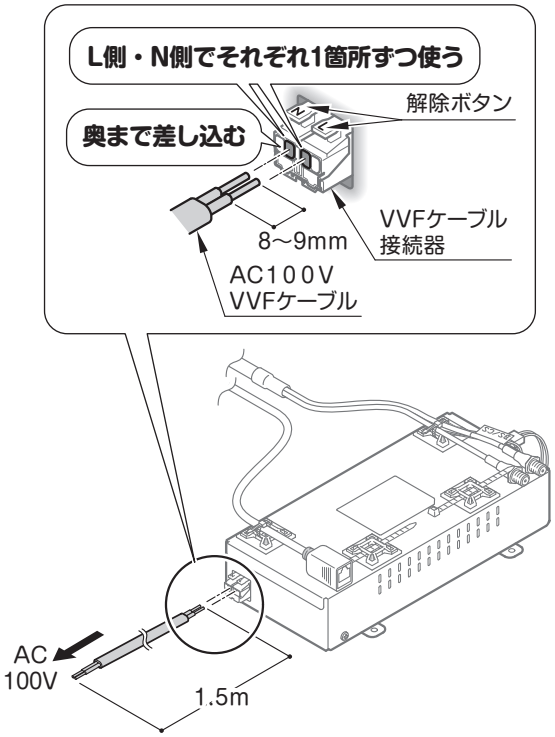
7．LAN設定を行う 31

電気工事

1 電源ケーブル・アンテナ線の接続

電気工事は電気工事業者へ依頼してください。

①電源ケーブルを接続する。



⚠警告

必ず行う

必ず漏電遮断器および屋内開閉器のある電路に接続する

- 感電するおそれがあります。
- 各極間の接点間隔が3mm以上あり、同時に全極が遮断できる遮断器を設置してください。

電気工事は関連する法令・法規にしたがって必ず「有資格者（電気工事士）」が行う。

- 誤った工事を行うと、故障や漏電のときに感電するおそれがあります。

⚠注意

必ず行う

電源は１００Vを接続する。

- 200Vを接続すると故障の原因となります。

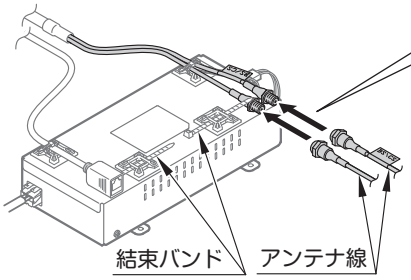
VVFケーブルはφ1.6～2.0mmを使用する。VVFケーブルは芯線を8～9mm出るように加工してVVFケーブル接続器の奥まで挿入する。VVFケーブルをはずすときは、VVFケーブル接続器の解除ボタンを押して、抜く。

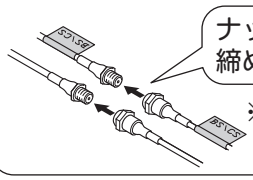
- 解除ボタンを強く押し込むと破損の原因になります。

VVFケーブルの引き回しの際に接続器に力を加えない

- 接続器取付部が変形し、故障の原因となります。

②アンテナ線をモニター中継ケーブルに接続する。
※モニター中継ケーブルのF型端子（アンテナ端子）に接続してください。





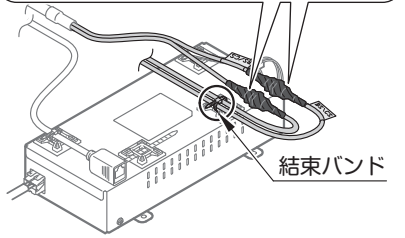
※地デジ／BS・CSの誤接続に注意してください

⚠注意

必ず行う

- アンテナ端子への信号強度は７０ｄＢμＶを目安にしてください。

③アンテナ線の金属端子部にビニールテープを巻き付け、アンテナ線を電源ボックス付属の結束バンドで固定する。



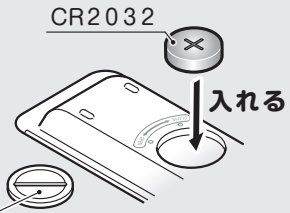
試運転

1 リモコンの準備

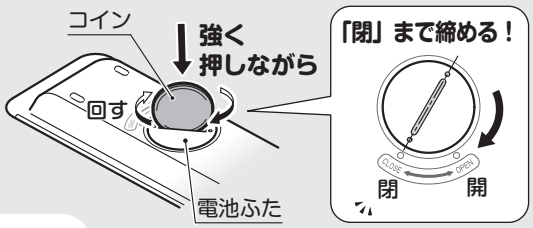
リモコンにボタン電池を入れてください

①リモコン裏面の電池ふたを回して開ける。
※コインなどを使用してください。

②ボタン型電池を入れる。
※プラス⊕を手前に！



③電池ふたを強く押しながら回し「閉」まで締める。



※ 電池の⊕⊖は正しい向きに入れてください。

⚠ 注意

必ず行う

電池交換は必ず水滴などを拭き取ってから行う

- リモコン内部に水が入ると故障します。

※ リモコンは、画面右上の受光部に向けて操作します。
操作できる範囲は、受光部から約5m、上下左右に約30度以内です。

※ リモコンとモニターの間に障害物があったり、リモコン受光部に直射日光や蛍光灯の光などがあたっている場合は、正しく動作しない場合があります。

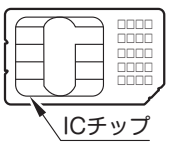
2 B-CASカードを挿入する

ブレーカーを「入」にする前に、B-CASカードをモニターにセットする

【付属のB-CASカード】

表面

裏面



B-CASカード台紙

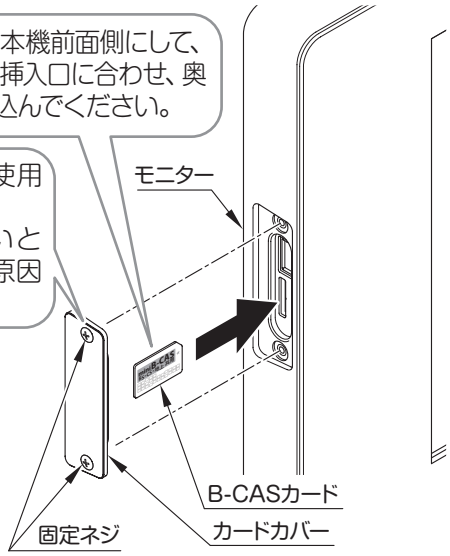
おしらせ

※台紙から開封すると、添付されている契約約款に同意したとみなされます。お客様に必ず契約約款をよくお読み頂き、開封をお願いしてください。

①B-CASカードを挿入する前に同梱の「B-CASカード使用許諾契約約款」の内容を確認する。
②内容に同意の上でB-CASカードを台紙から外す。
③カードカバーの上下の固定ネジをドライバーNo.1で外し、カードカバーをモニターから外す。
④B-CASカードを図のようにカチッと音がするまで押し入れる。
⑤カードカバーを閉じて、固定ネジをドライバーNo.1で確実に締め付ける。
※浮き防止のため、中央部を強く押えてください。

絵表示が見える面を本機前面側にして、カード表面の向きを挿入口に合わせ、奥までゆっくりと押し込んでください。

ドライバーNo.1を使用してください。
サイズが合わないと十字穴がつぶれる原因となります。



⚠ 警告

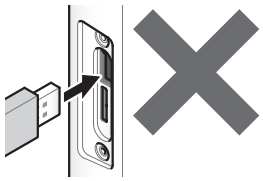
禁 止

- このカードは常時受信機器に装着して使用し、小さいお子様にふれさせないようにしてください。誤って飲み込むと、窒息またはけがのおそれがあります。
万一、飲み込んだと思われる場合は、すぐに医師にご相談ください。

2 B-CASカードを挿入する（つづき）

⚠注意

B-CAS（ビーキャス）カードを本機に必ず入れてください。
- B-CASカードを入れないと、デジタル放送（地上デジタル放送、BSデジタル放送、110度CSデジタル放送）が映りません。
- B-CASカードには視聴情報などが記憶されます。
- B-CASカードの取り扱いについて詳しくは、カードを貼ってある台紙の説明をご覧ください。
- カードカバーとモニター本体の段差がないように、しっかりと取り付けてください。すきまが生じていると、防水性が損なわれ、火災・感電・故障の原因となります。
- B-CASカード挿入口の上のUSB端子は、メンテナンス用で、通常は使用しません。



B-CASカードの抜き差しについて

必ず行う
- 抜き差しするときは、B-CASカードが脱落しないようにご注意ください。紛失する原因となります。
- B-CASカードを正しい向きで挿入してください。向きを間違えると、B-CASカードは機能しません。
- ご使用中にB-CASカードの抜き差しはしないでください。デジタル放送が視聴できなくなる場合があります。
- B-CASカード挿入口にB-CASカード以外のものを挿入しないでください。故障や破損の原因となることがあります。

B-CASカードを抜くとき
- B-CASカードにはIC（集積回路）が組み込まれているため、画面にB-CASカードに関するメッセージが表示されたとき以外は、抜き差しをしないでください。
- 万一、抜く必要があるときは、カードカバーを取り外し、カードを一度押し込んでください。カードが少し飛び出しますので、ゆっくりカードを抜いてください。

B-CASカードについて
- 本機に付属のB-CASカードには1枚ごとに違う番号（B-CASカード番号）が付与されています。
- B-CASカード番号はお客様の有料放送契約内容などを管理するために使われている大切な番号です。B-CASカスタマーセンターへの問い合わせの際にも必要となります。

B-CASカード取り扱いの注意点
- B-CASカードを折り曲げたり、変形させたり、傷をつけないでください。
- B-CASカードの上に重いものを載せたり、踏みつけたりしないでください。
- B-CASカードに水をかけたり、ぬれた手でさわらないでください。
- B-CASカードのICチップ（集積回路）には触れないでください。
- B-CASカードの分解、加工は行わないでください。

B-CASカードについてのお問い合わせ
(株)ビーエス・コンディショナルアクセスシステムズ　カスタマーセンター
電話　0570-000-250

ブレーカーを「入」にした後、P.21～36の操作・設定・確認をする

※すべての接続を終えて電源を入れた後、「システム動作テスト」(▶取説 P.53)を行うと、カード番号が表示され、B-CASカードが正しく挿入されているか確認できます。

⚠注意

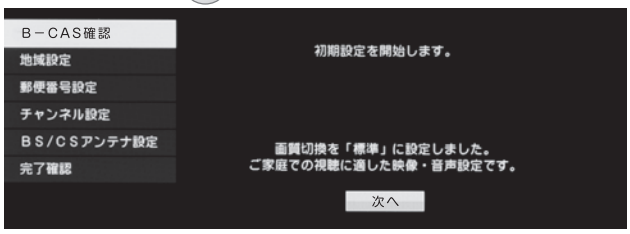
必ず行う
電源を入れた状態で、モニターと電源ボックスを接続している電源接続ケーブルを抜き差ししないでください。
本製品が故障する恐れがあります。

3 かんたん初期設定をする

1 電源ボタンを押し、電源を入れる

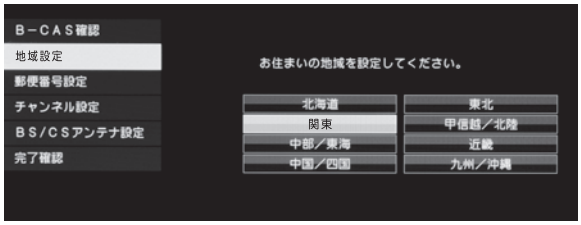
・電源の入れかた
▶取説P.11参照

2 メッセージを確認し、「次へ」を選び、決定ボタンを押す



・途中で設定を中止する場合
▶電源を切る
・「B-CASカードを正しく挿入してください。」と表示された場合
▶P.19参照

3 ①お住まいの地域を選び、決定ボタンを押す



②お住まいの都道府県または地域を選び、決定ボタンを押す

おしらせ

・設定中に戻るボタンで一つ前の画面に戻れます。
・かんたん初期設定の画面が表示されないときや、引越しなどで設定をやり直すとき
▶ホームボタンを押し、ホームメニューからかんたん初期設定を行ってください。

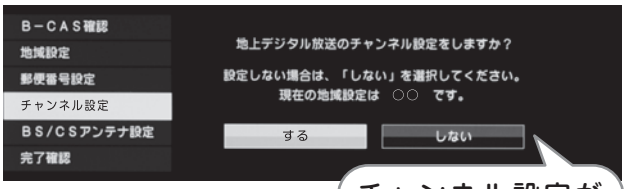
▼ホームメニューの画面例

3 かんたん初期設定をする（つづき）

4 ①～⑩/0ボタンで郵便番号を入力し、決定ボタンを押す

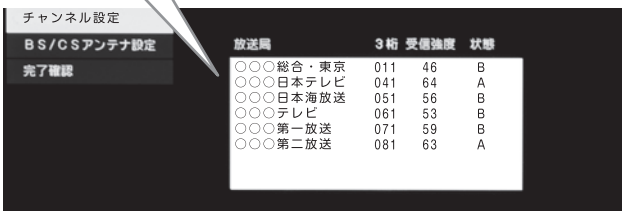
・「0」を入力するときは⑩/0を押します。

5 ◀▶ボタンでチャンネル設定を「する」を選び、決定ボタンを押す

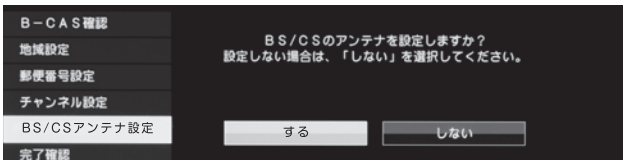


チャンネル設定が終わるまでしばらくお待ちください。

お住まいの地域のチャンネルが登録されているか確認してください。



6 ◀▶でBS/CSアンテナ接続の「する」または「しない」を選び、決定ボタンを押す

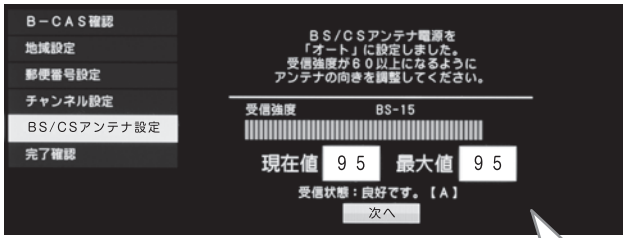


「しない」を選んだとき

▶次ページ手順8へ進む。

「する」を選んだとき

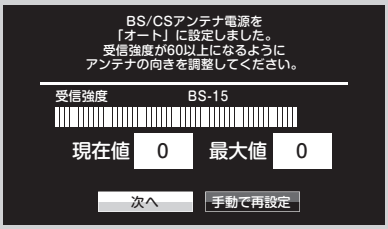
▶「BS/CSアンテナ電源自動設定中」の画面が表示されます。



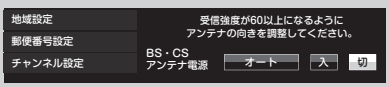
次の画面が表示されるまでしばらくお待ちください。

おしらせ

・手順6で「する」を選んだあと、次の画面が表示されます



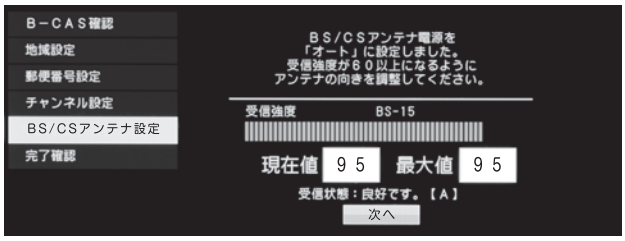
上記の画面で「手動で再設定」を選んだときは



◀▶ボタンで、BS・CSアンテナに電源を供給するかを選び、決定ボタンを押したあと、「次へ」で決定ボタンを押すと、次ページの手順8の画面が表示されます

3 かんたん初期設定をする（つづき）

7 受信状態を確認し、決定ボタンを押す



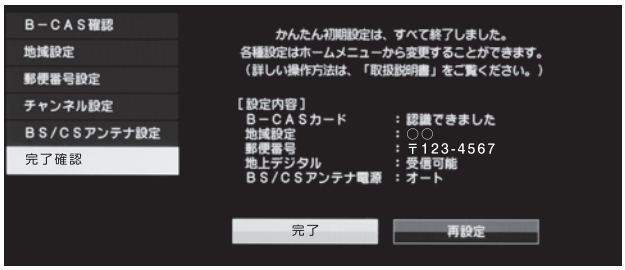
おしらせ

「受信状態:良好です。【A】」と表示されない場合

画面に表示されるメッセージ例	対処のしかた
受信強度が60以下です。【B】	受信強度が60以上になるようにアンテナの向きや接続を調整してください。
アンテナ信号が強すぎます。【C】	アンテナ信号が強すぎるため、受信障害が発生しています。ブースターの調整や減衰器の取り付けが必要です。販売店などにご相談ください。
アンテナ信号が不足しています。【C】	ブースターの調整や取り付けが必要です。販売店などにご相談ください。
アンテナ信号が良くありません。【C】	アンテナ信号が劣化しています。アンテナの接続、および調整を確認しても改善しない場合は、販売店などにご相談ください。
受信できません。【E】	本体の電源ボタンでいったん電源を切り、アンテナの設置やアンテナ線を確認してください。

8 設定された内容を確認し、間違いがなければ「完了」を選び、決定ボタンを押す

映りかたを確かめてください。



放送が受信できないとき
▶P.28参照

4 デジタル放送の受信の設定を個別に行うときは

デジタル放送用アンテナの設定をする

- デジタル放送用のアンテナの接続を変更したときなどは、再度アンテナ設定画面を見ながらアンテナ電源の設定やアンテナの向きを調整します。
  初めて設置するときや引っ越したとき⇒「かんたん初期設定」（▶P.21）
- 地上デジタル放送にはアンテナ電源入／切の設定はありません。

項目	内容
オート	• 個人でアンテナを設置している場合に選びます。 • 本機の電源が入っているとき、アンテナ電源の設定を自動的に制御してアンテナに電源を供給します。 （リモコンで電源を切ったときは、アンテナ電源も切れた状態になります。）
入	• 「オート」を選んでBS デジタル放送が受信できたりできなかったりするときは、「入」を選びます。 • 本機の電源が入っているとき、アンテナに電源を供給します。リモコンで本機の電源を切ったときも、常にアンテナ電源は「入」になります。
切	• 共聴アンテナに接続しているときなど、電源を供給しないときに選びます。 • アンテナ電源が常に「切」になります。

<アンテナ設定画面について>

- 共聴アンテナなどに接続したときの「BS・CSアンテナ電源」の設定を誤って「入」にしたり、新しくアンテナの接続を変更したりした場合で、「アンテナ線の接続や設定に不具合がありますのでアンテナ電源を「切」にしました。受信できない場合は、本体の電源を切ってから、アンテナの接続を確認してください。」などのお知らせが表示されたときは、電源を入れ直してください。
- アンテナ設定画面は無操作のまま1分経過しても消えません。
  消すときは、終了ボタンを押してください。

アンテナの電源の設定を変える／電波の強さ（受信強度）を確認する

- アンテナに電源を供給するかどうかの設定と、受信強度の確認・調整をします。

重要

・アンテナ電源供給の設定は、アンテナに対して電源（DC15V ／ DC11V）を供給するためのものです。もし、本機とアンテナの間にブースターなどの機器を接続して使用される場合は、専用の電源が必要です。

4 デジタル放送の受信の設定を個別に行うときは（つづき）

1 BSボタンを押し、BSデジタル放送を選ぶ

- 画面に「放送が受信できません」と表示されても、設定できます。

2 ホームメニューから「設定」－「視聴準備」－「テレビ放送設定」を選び、決定ボタンを押す

3 「アンテナ設定」を選び、決定ボタンを押す

4 「電源・受信強度表示」を選び、決定ボタンを押す

4 デジタル放送の受信の設定を個別に行うときは（つづき）

アンテナに電源を供給するための設定

5 BS・CSアンテナ電源で、「オート」「入」「切」のいずれかを選び、決定ボタンを押す

受信強度の調整

6 受信強度が最大になるように、アンテナの向きを調整する

- 受信強度が60以上になるように、アンテナの向きを調整してください。（アンテナの向きの調整が済んでいる場合は、この手順は必要ありません。）
- 操作を終了する場合は、ホームボタンを押します。

おしらせ

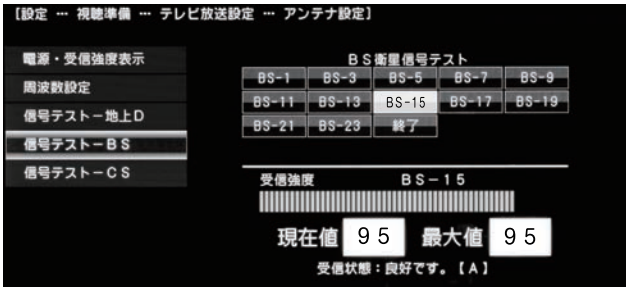
- 手順6で「受信状態：良好です。【A】」と表示されないときは、P.23をご覧になり適切な処置を行ってください。
- 手順5または手順6の画面で、「受信状態一覧へ」を選び決定ボタンを押すと受信状態一覧画面が表示されます。（▶取説 P.66 ～ 67）
- 受信強度表示はアンテナの角度の最適値を確認するためのものです。表示される数値などは、具体的な受信強度などを示すものではありません。（表示される数値は、受信C/N（※）の換算値です。）
  （※）受信C/Nとは放送に関する信号とノイズなどの不要な信号の割合です。

4 デジタル放送の受信の設定を個別に行うときは（つづき）

デジタル放送の受信強度の確認

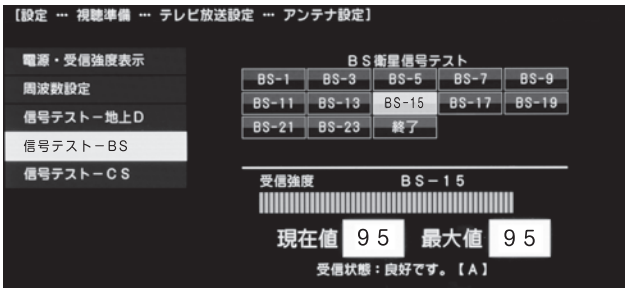
・各デジタル放送の信号テストができます。
（例）BSデジタル放送の信号テストをする

1 P.25の手順1～3を行い、「信号テストーBS」を選び、決定ボタンを押す



2 ▲▼◀▶ボタンで確認したい項目を選び、決定ボタンを押す

- 「受信状態：良好です。【A】」と表示されていることを確認してください。
- 「受信状態：良好です。【A】」と表示されないときは、アンテナ受信強度に関するエラーメッセージ（▶P.23）をご覧になり、適切な処置を行ってください。



3 ▲▼◀▶ボタンで「終了」を選び、決定ボタンを押す

ホーム ボタンを押すと操作を終了します。

おしらせ

地上デジタル放送・110度CSデジタル放送の受信強度の確認（信号テスト）について

・手順1で「信号テストー地上D」または「信号テストーCS」を選び、決定ボタンを押します。あとは同じ要領で行ってください。

周波数設定について

・手順1で「周波数設定」を選ぶと、新しい衛星が追加されたり現在の衛星が故障したりした場合などに、新しい周波数を入力することで受信に必要な情報を取得できます。通常は、設定する必要はありません。
（例：BS15のアンテナ受信周波数11996を入力すると15chの受信強度が表示されます。）

5 こんなときは

アンテナ接続について

内容	チェックポイント
BS・CS アンテナを接続していないとき	「次へ」を選び決定ボタンを押してください。
BS・CS アンテナを接続しているとき	本体の電源ボタンでいったん電源を切って、BS・110度CSデジタル用アンテナケーブルの接続を確認してください。（▶P.4） 電源を入れ直すとかんたん初期設定の画面が表示されます。
アンテナ接続を変更したときや、移転などでBS・110度CS デジタル用アンテナの電源の設定を変えるとき	（▶P.24～27）

試運転の際、故障かな？と思ったら

不具合の内容	チェックポイント
電源が入らない	・電源は正しく接続されていますか？ ・屋内開閉器はオンになっていますか？ →電源を正しく接続し、電源をオンにしてください。 ※初めて電源をオンにする際は、地上デジタルチューナーに電気を供給する時間が必要なため、約1分待った後にモニターをオンにしてください。
映像が映らない	・モニター中継ケーブルは正しく接続されていますか？ ・アンテナは正しく設置されていますか？ →アンテナ線およびアンテナを正しく接続・設置してください。 ・信号強度は十分ですか？
映像が悪い	・モニター中継ケーブルはしっかりと接続されていますか？ ・アンテナ線が他の電気機器の上を通ったりしていませんか？ ・アンテナの向きは正しいですか？ ・周囲に雑音となる原因がありませんか？ →モニター中継ケーブルをしっかりと接続し、アンテナ配線およびアンテナの向きを調整してください。また雑音の原因を取り除いてください。 ・信号強度は十分ですか？
リモコンが動作しない	・電池は入っていますか？ ・電池の極性⊕⊖は正しい向きに入っていますか？ ・リモコンのボタン型電池が消耗していませんか？ →電池の確認を行ってください。 ・リモコンを本機のリモコン受光部に向けて操作してますか？ ・リモコン受信部やテレビ本体のリモコン受光部が汚れていませんか？ →清掃後、正しく使用ください。

5 こんなときは（つづき）

「かんたん初期設定」を行っても受信できない放送があるときや設定の変更をしたいときは

内容	チェックポイント
デジタル放送用アンテナの設定をしたい	デジタル放送のアンテナの向きの調整や信号の強さのテスト、BS・110 度CS デジタル放送用アンテナへの電源供給の設定を行います。 （▶P.24～27）
お住まいの地域向けの地上デジタル放送を受信したい	デジタル放送の地域情報を視聴するために、お住まいの地域を選んで郵便番号を入力します。（▶P.21～22）
地上デジタル放送のチャンネルを追加したり設定をやり直したい	受信できる地上デジタル放送のチャンネルを探します。 （▶取説 P.21～22）
デジタル放送のチャンネルの個別設定をしたい	デジタル放送のチャンネルの設定を個別に変更することもできます。（▶取説 P.23～25）

モニターにメッセージ表示があった場合

メッセージ表示　地上デジタル放送のチャンネルが見つかりませんでした。

チェックポイント　本体の電源ボタンでいったん電源を切ってUHF アンテナの接続を確認してください。
電源を入れ直すとかんたん初期設定の画面が表示されます。

メッセージ表示　B－CASカードが正しく挿入されていません。B－CASカードをご確認ください。

チェックポイント　故障が想定されます。販売店までお問い合わせください。

※ 同梱のリモコン（ボタン型電池入り）、リモコンホルダー、取扱説明書は取扱説明書の袋に入れ、お客様に確実にお渡しください。

6 LANに接続する

⚠注意

必ず行う

本機で双方向通信をお楽しみになるには、LAN回線が必要です。
本機には電話回線端子はありません。
そのため、電話回線による双方向通信は利用できません。
本機ではインターネットは利用できません。

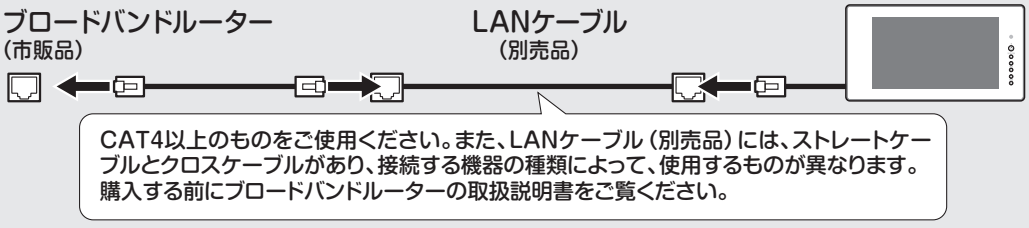
おしらせ	
IP アドレスについて	TCP/IP ネットワークに接続されたネットワーク機器に個別に割り振られた識別番号です。
ネットマスクについて	TCP/IP ネットワークを複数の小さなネットワークに分割して識別管理する識別番号です。
ゲートウェイについて	異なるネットワークを相互に通信可能にする機器の識別番号です。
プロバイダーから発行された資料で、DNSのアドレスが見つからないとき	DNS は、ドメインネームサーバーやネームサーバーと記載される場合もあります。

LAN接続と設定のながれ

LANに接続する（⇒下記）▶ LANの設定を変更する（▶ P.31）
必要に応じてプロキシサーバーの設定ができます。

LAN に接続する

LANの設定およびルーターなどの購入は専門知識が必要ですので、お買い上げの販売店やプロバイダーなどにご相談ください。
ご家庭にブロードバンド環境がある場合は、本機のLAN端子と接続できます。通信端末機器認定品の市販のルーターなどを用いてLAN接続をしてください。

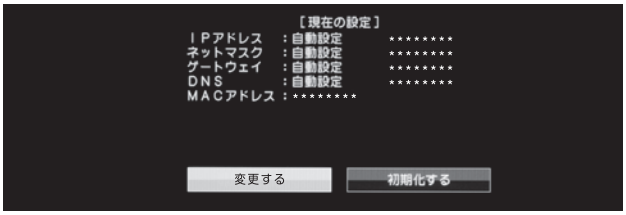


CAT4以上のものをご使用ください。また、LANケーブル（別売品）には、ストレートケーブルとクロスケーブルがあり、接続する機器の種類によって、使用するものが異なります。
購入する前にブロードバンドルーターの取扱説明書をご覧ください。

7 LAN設定を行う

1 ホームボタンを押し、ホームメニューから▲▼◀▶ボタンで「設定」－「視聴準備」－「通信設定」－「LAN設定」を選び、決定ボタンを押す

2 「変更する」を選び、決定ボタンを押す



3 IPアドレスなどを自動で取得「する」または「しない」を選び、決定ボタンを押す

・IPアドレスなどを手動で入力する場合

▶「しない」を選び、〈IPアドレスを手動で入力する場合〉（▶P.33）をご覧になり、ブロードバンドルーターの設定に合わせて、IPアドレス、ネットマスク、ゲートウェイを入力します。

・IPアドレスを自動で取得する場合

「する」を選び、決定ボタンを押したあと、「次へ」で決定ボタンを押します。

7 LAN設定を行う（つづき）

4 DNSのIPアドレスを自動で取得「する」または「しない」を選び、決定ボタンを押す

・DNSのIPアドレスなどを手動で入力する場合

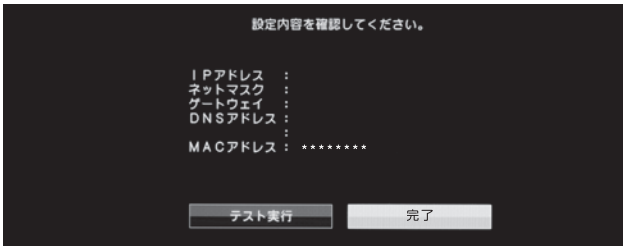
▶「しない」を選び、プロバイダーから発行された資料をもとに、DNSのIPアドレスを入力し、「次へ」で決定ボタンを押します。

▶セカンダリの指定がない場合は、空欄のまま入力を完了してください。

・自動で取得する場合

▶「する」を選び、決定ボタンを押したあと「次へ」で決定ボタンを押します。

5 設定された内容を確認し、「完了」を選び、決定ボタンを押す



・操作を終了する場合は、ホームボタンを押します。

7 LAN設定を行う（つづき）

IPアドレスを手動で入力する場合

1 IPアドレスを自動で取得「しない」を選び、決定ボタンを押し、▲▼ボタンで入力欄を選び、決定ボタンを押す

ソフトウェアキーボードが表示されます。

2 1 ～10/0 ボタンまたは▲▼◀▶ボタンでIPアドレスなどを入力し、黄ボタンを押して、文字を確定する

文字が入力欄に入力されます

3 入力した内容を確認し、「次へ」を選び、決定ボタンを押す

7 LAN設定を行う（つづき）

プロバイダーなどから指定がある場合

プロキシ設定機能を利用します。

おしらせ

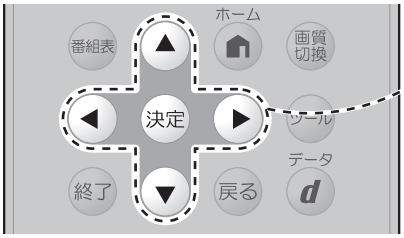
この設定には暗証番号の入力が必要です。暗証番号の設定をしていない場合は、先に暗証番号を設定してください。（▶取説 P.61）

1 ホームボタンを押し、ホームメニューから▲▼◀▶ボタンで「設定」－「視聴準備」－「通信設定」－「ネットサービス制限設定」－「プロキシサーバー設定」を選び、決定ボタンを押す

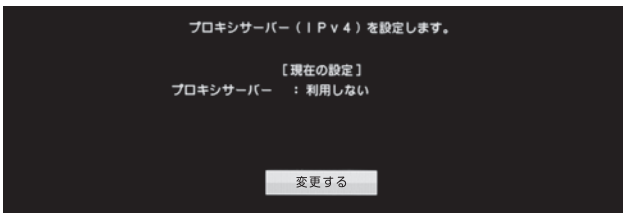
2 1～10/0ボタンで暗証番号を入力する

7 LAN設定を行う（つづき）

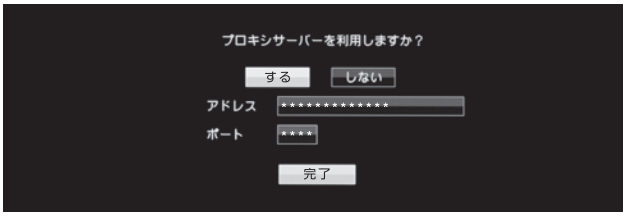
プロバイダーなどから指定がある場合（つづき）



3 「変更する」を選び、決定ボタンを押す



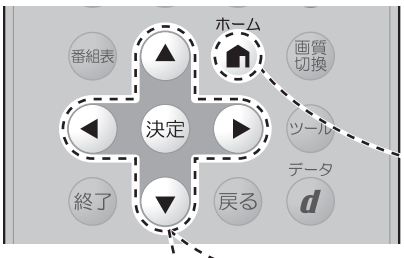
4 「する」を選び、決定ボタンを押し、1～10/0ボタンでプロキシサーバーのアドレスとポート番号を入力し、「完了」を選び、決定ボタンを押す



7 LAN設定を行う（つづき）

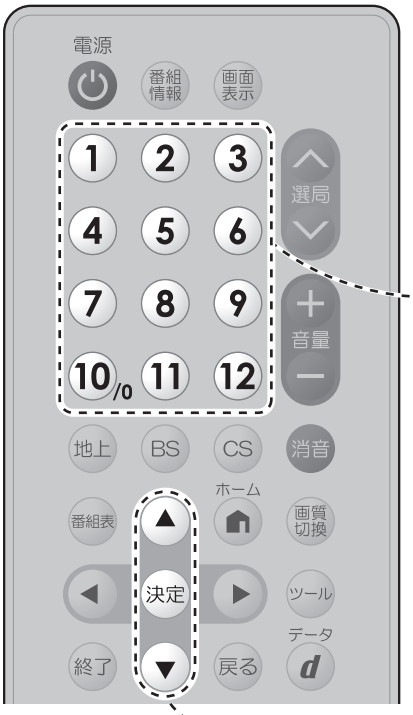
双方向サービスの利用を制限する場合（オプション）

おしらせ
この設定には暗証番号の入力が必要です。暗証番号の設定をしていない場合は、先に暗証番号を設定してください。（▶取説 P.61）



1 ホームボタンを押し、ホームメニューから▲▼◀▶ボタンで「設定」－「視聴準備」－「通信設定」－「ネットサービス制限設定」を選び、決定ボタンを押す

2 「デジタル放送接続制限」を選び、決定ボタンを押す



3 1～10/0ボタンで暗証番号を入力する

4 ▲▼ボタンでデジタル放送接続制限を「する」を選び、決定ボタンを押す

MEMO

MEMO

MEMO